

電気通信大学 平成19年度シラバス

| | | | |
|---------|------------------------|----------|-----------|
| 授業科目名 | ナノメカニクス特論 | | |
| 英文授業科目名 | Advanced Nanomechanics | | |
| 開講年度 | 2007年度 | 開講年次 | |
| 開講学期 | 後学期 | 開講コース・課程 | 博士前期・後期課程 |
| 授業の方法 | | 単位数 | 2 |
| 科目区分 | 電気通信学研究科-知能機械工学専攻-専門科目 | | |
| 開講学科・専攻 | 知能機械工学専攻 | | |
| 担当教官名 | 新谷 一人 | | |
| 居室 | 東4-702 | | |

| | |
|------------------------|------------|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| shintani@mce.uec.ac.jp | |

| |
|--|
| 【主題および達成目標】 |
| <p>原子・分子レベルで物質を制御することにより、新規な特性や機能を有する材料、デバイス、システムを創造し応用するナノテクノロジーでは、薄膜、ナノチューブ、ナノワイヤ、ナノクラスターなどのナノスケールの材料や構造が注目され、一部では実用化が始まっている。ナノ材料・ナノ構造とその形成技術はMEMS/NEMS(Micro/Nano-Electro-Mechanical Systems)やナノマニピュレータ(ナノプローブ、ナノピンセット)の材料として、また、その形成手法として有望である。ナノ材料・ナノ構造はナノスケールに特有な特性や機能を有しており、実用化のためにはその力学的特性や形成過程を解析・予測することが必須である。ナノスケールの解析では分子動力学法、第一原理計算などの原子論的手法が有効であり、この授業ではこれらの手法の基本的事項と応用について解説する。</p> |

| |
|-------------------------|
| 【前もって履修しておくべき科目】 |
| |

| |
|------------------------------|
| 【前もって履修しておくことが望ましい科目】 |
| 計算固体力学 |

| |
|--------------------|
| 【教科書等】 |
| 指定しない。適宜、参考書を紹介する。 |

【授業内容とその進め方】

1. ナノ材料・ナノ構造

- (1) ナノテクノロジー概観
- (2) 量子ドット
- (3) クラスタ
- (4) ナノワイヤ
- (5) ナノチューブ
- (6) 薄膜・エピタキシー

2. 分子動力学法概説

- (7) 古典分子動力学法
アンサンブル、経験的ポテンシャル、運動方程式、積分スキーム、温度制御、境界条件
- (8) 第一原理計算
密度汎関数法、Car-Parrinello法

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席とレポートによる。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、e-mailなどで事前にアポイントをとること。

【学生へのメッセージ】

材料ナノテクノロジーは未来に向けて夢が膨らむ研究分野です。次代を担う技術者・研究者となる君達に、ナノスケールの研究のおもしろさを知ってもらうことがこの講義の第一の目的です。

【その他】